

B 5

774



明治九年十二月

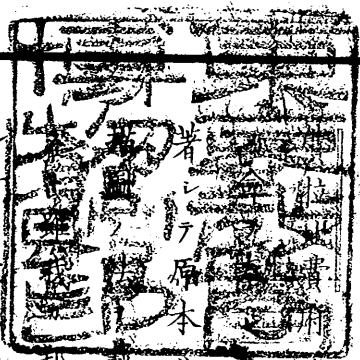
地理描圖法

文部省

明治十八年七月四日 文部省交符

地理描圖法例言

一 此書原本ハ亞國ノ亞伯齊爾氏ノ著ニレテ其



石橋氏好一文部省
ノ石橋氏自緒言ヲ
中ニ於キテ合衆國
詳ナリ今コレヲ譯
ニ非サレハ記ス

ル所ハ唯其大洲ノ圖法ニ止マリ又北亞米利
加ヨリ他ノ三洲ニ及ホスノ順次ヲ改メテ亞
細亞ヲ首トシ叙シテ以テ亞米利加歐羅巴亞

地理描圖法

例言

文部省

弗利加ニ至ルト云ヘリ蓋主客同シカラサレハナリ

一 此書元教師ヲシテ童子ヲ教誘スルノ法ニ諳熟セシメンコトヲ要トスル所ナリ故ニ北亞米利加大洲ノ條ニ於キテ其誘導教誨ノ法ヲ講スルコト最懇切ヲ極ム今既ニ亞細亞ヲ以テ主トス其法モ亦詳略ヲ異ニセスハアルヘカラス是ヲ以テ亞國條下ノ詳ナル者ヲ刪除シ其意ニ倣ヒテ新ニ增補ヲ亞細亞ノ條下ノ略ナル者ニ加ヘ務メテ原書ノ體ニ模倣セン

コトヲ要ス庶幾ハクハ少レク其誘導教誨ニ裨益アラシクコトヲ

一 原書ノ例各大洲沿海ノ島嶼ニ至リテハ甚密接セル者ト雖毫モ論及セル所無シ顧フニ本邦ノ如キハ東海ノ表ニ屹立セルヲ以テ其圖モ亦亞細亞描畫ノ線外ニ隔在ス故ニ距離布置共ニ大洲ト關涉スル所アルコト無レハ幼童ノ徒演習ノ際心思ヲ過勞スルコトヲ免レサルニ近カラントス是ヲ以テ今基罫線外更ニ一弧線ヲ施シ略コレカ説ヲ附シ其係ル處

ヲ明ニシ兼テ本邦近地ハ較詳細ヲ加フ主
 客ノ別自然ラサルコトヲ得サレハナリ因リ
 テ又北亞米利加條下合衆部ノ描圖法ヲ省キ
 代フルニ日本描圖篇ヲ以テシコレヲ亞細亞
 條下ニ載ス此篇ハ宮本三平ノ新ニ撰ヒタル
 者ニ據リテ繁ヲ刪リ簡ヲ補ヒ幼童ノ習熟ニ
 易カラレメンコトヲ要スルノミ但本邦ノ地
 クル四陸皆海ニ瀕スルヲ以テ到ル處港灣隅
 角ヲ成シ海岸線ノ迂回灣環最多クテ四大
 島聯屬附離ノ勢モ亦特ニ甚シク其法固既ニ

容易ナラス況ンヤ此篇創製ニ係ルヲヤ故ニ
 且其概略ヲ舉ケテ以テ苟完クスルノミ
 一篇中總テ經度ハ英國綠林ヨリ起算スルモノ
 ニ從ヒ尺度モ亦同國ノ法ヲ用フ故ニ一寸ハ
 我曲尺八分三厘餘ニ均レク一尺ハ我一尺。
 四厘餘一里ハ我十四町四十三間四尺七五
 九餘ニ同レク一碼ハ三尺ニ均レ
 一全書盡石橋氏ノ譯スル所ニ係ルト雖亞細亞
 亞米利加ノ部ハ刪除増補ヲ經タルヲ以テ其
 面目舊ト異ナル者多シ南亞米利加以下歐羅

巴亞弗利加ニ至リテハ毫モ損益スル所無シ
故ニ其以テスル所ヲ叙シテコレヲ讀ム者ニ
告クルコト此クノ如シ

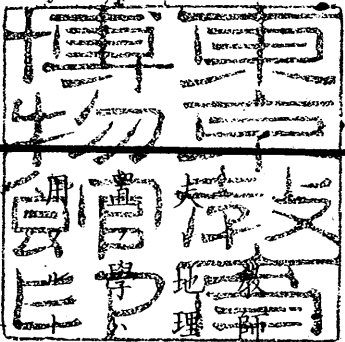
明治九年八月

大井潤一 識

地理描圖法

石橋好一 原譯

大井潤一 増補



ノ心得

地理學ハ首トシテ地球表面ノ形勢及其位
ニ爲ノモノナリ但シ之ヲ學フニ圖ヲ
キハ講説ニヨリテノミ學ヘルヨリハ
去ツテ善ク地上ノ形勢位置等ヲ曉シ得ヘシ故
ニ地圖ハ地理學ヲ學フニ欠クヘカラサル具ナ
リ

扱又生徒等ハ本文ノ課業ヲ暗記シ、温習ノトキ
 ニ方リテ其著者ノ記セレ儘ニ之ヲ教師ニ對シ
 テ暗誦ス、地圖ヲ學フモ亦之ト同シ法方ニテ地
 圖ヲ暗記シ温習ノトキニ臨ミ此書ニ畫ケル如
 ク亦之ヲ畫クベキナリ
 又物ノ形狀ヲ最モ容易ク記憶セシニハ先ツ其
 形ヲ畫キ得シコトヲ手ニ教フルヲ善トス但シ
 斯ク手ニ教ヘ畫カシメント心ヲ勞スルヲ以テ
 心モ亦能ク其形狀ヲ記憶スヘシ抑圖學ハ素形
 狀ノ學ナレハ之ヲ學フノ法方ハ圖ノ畫キ其形

狀ヲ學フヲ良法トス
 描圖法ヲ學ハシメンニハ生徒ノ正シク圖ヲ畫
 ク事及其畫キシ圖ノ正シキヤ否ヲ判論スル法
 方ノ設ナクシテハアラス但シ斯ク生徒ヲ助成セ
 ンガ爲ニハ基罫圖ヲ製作スルハ其形ナリヲ用フルヲ最良ノ
 法トセリ而シテ此基罫ハ其形ヲ畫カント欲ス
 ル圖ノ境界線ト符合スルヤウ心シテ製作スヘ
 シ○此ノ如ク基罫ヲ製作セハ之ヲ組立タル線
 ノ長短ニヨリテ今畫カントスル圖ノ概形ヲ知
 ルヲ得尚且此基罫ノ角度及區分ノ標點ニヨリ

テ突出セル地勢ノ位置ヲモ定ムルヲ得ベキナ
 リ
 而シテ地圖ハ又如何様ニ彎曲參差ストモ基罫
 ハ常ニ簡易ニシテ之ヲ製ルニ容易ク且生徒ノ
 記憶シ易カラシムヤウ作ルベシ
 大洲ヲ畫クニ用ヒントスル基罫ヲ製作センニ
 ハ常ニ其首線ヲ以テ他ノ諸線ヲ度ル準規トス
 ベシ
 描畫ノ演習ヲ行フニハ其始生徒教師ノ示指ニ
 從テ圖ヲ塗板上ニ畫キ後之ヲ石盤上ニ圖シテ

教師ニ示レ其指教ヲ受ケ次ニ又紙上ニ畫キテ
 教師并ニ生徒ノ品評ニ供ヘンカ為ニス描畫ノ
 演習ハ則チ右ノ如クナサシムヘシ○又教師歟
 若シクハ生徒ノ中ニテ殊ニ熟練セルモノ塗板
 上ニ端正ナル一個ノ外邊圖ヲ畫キ生徒ヲシテ
 此圖(斯ル外邊圖ヲ用フルハ印刷シタルモノヲ
 用フルヨリモ更ニ宜シトス)ニ倣ヒ其課業ヲ溫
 習セシメ又生徒ノ日々ニ學ヒタル地勢等ヲ新
 ニ此圖上ニ畫キ加ヘシムルモ亦可ナリトス
 諸又描圖ノ各課業共ニ連續イテ多少速畫ノ法

ヲ行ハシムベシ但シ此速畫法ヲ行ハシムルト
 キ生徒ノ互ニ相競ハンヤウ勵サン爲教師生徒
 等ヲレテ其課業ヲ塗板上ニ畫カシメ其畫ク時
 間ヲ計ルヘシ○此ノ如ク速畫法ヲ行ハシムル
 トキハ生徒等忽チ其法ニ練磨シテ基幹ハ半分
 時ニテ之ヲ畫キ大洲ハ三分時ヨリ五分時ノ間
 ニテ之ヲ畫クヲ得ヘシ且又此速畫法ヲ行ハシ
 メン後ハ生徒ヲレテ常ニ續イテ一齊温習ヲ行
 ハシムヘシ

聖筆講解ト名クル演習ノ法ハ最良ノ者トス但
トキニテエドカキテ

レ此法ヲ行ハンニハ生徒ヲレテ地圖ヲ畫クノ
 間其地勢ヲ描キナガラ簡易且活潑ニ講説スベ
 シ斯ノ如ク聖筆ヲ以テ圖ヲ描キツ、絶エズ之
 ヲ講説スルヲ聖筆講解トイフ
 描圖ノ演習ヲ行フニハヨク注意シ生徒ノ模範
 圖ヲ用ヒズンテ其圖ヲ正シク且疾ク畫カシヤ
 ウ教導スヘシ
 諸又生徒等圖ヲ精密ニ畫クヲ得尚其圖上ノ形
 勢等ヲモ詳カニ講説スルヲ得バ顏料ト墨トヲ
 用ヒテ一個ノ圖ヲ畫カシメ且之ニ着色セシメ

テ其圖ヲ藏メ貯フベシ然レドモ最美ノ着色圖
ヲ製ラシメン爲トテモ許多ノ時ヲ費サシムル
ナカレ○石筆、石盤、鉛筆、紙、堊筆及塗板諸品ハ描
圖ニ用フヘキ必要ノ具ナリ尚又圖ハ總テ疾ク
且多ク畫カン事ヲ旨トスヘシ

又生徒ハ都府ノ民口并ニ高地ノ高ヲ表サン爲
ニ用フル記號ヲヨク會得セサルヘカラス蓋シ
此記號ハ生徒ヲシテ民口并ニ高地ヲ記憶セシ
ムル爲、大ニ益アルモノナレハ記號ヲ教フルノ
課業ヲ設ケ以テソノ記號ノ意味ヲ教フヘシ尚

此記號ハ描圖ヲ學フ爲常ニ必用ノモノタリ
大陸ヲ畫カシメンニハ第一ニ精シク其基幹ヲ
製ルヲ教ヘ次ニ海岸線ヲ畫カシメテ其海岸線
ヨリ成レル半島、岬、及ヒ灣港等ノ如キ形勢ヲ解
明セシメ而シテ後又山川、湖及都府等ノ如キ内
地ノ形勢ヲ畫カシメ且之ヲ講說セシムヘシ但
内地ノ形勢ヲ畫カシメンニハ預シテ生徒等ニ
大陸外部ノ形勢ヲ容易ク且精密ニ畫クコトヲ
理會セシメスンハアラス、若シ外部ノ形勢ノ畫
方不充分ナレハ隨テ内地ノ形勢モ不充分ナル

ヲ免カレサルナリ

又圖ノ形勢ヲ講說セシニハ次ニ掲クル所ノ次序及ヒ指教ニ從フヲ良トス

(基罫) 精密ニ基罫ノ製作方ヲ說クヘシ

(符合點) 基罫上ノ角度及區分ノ標點ヨリ次第ニ圖上ノ形狀ト其占ムベキ位置トヲ說クベシ

(半島) 半島ハ大洲ノ何レノ地ヨリ凸出シ何レノ洋海ニテ環繞セル等ヲ說クベシ

(岬) 大洲ノ何レノ所ヨリ何レノ海中ニ突出

スルヲ說クヘシ

(灣) 其位置ヲ示シ且此灣ハ何レノ海洋ニ屬スルヲ說クベシ

(島) 何レノ所ニアリテ且何レノ洋海ノ之ヲ圍繞スルヲ說クベシ

(山) 其高ヲ示シ次ニ其方向ヲ示シ而シテ後大洲ノ何レノ所ニ占位スルヲ說クベシ

(湖) 其位置ト其出路ヲ成セル河トヲ說クベシ

(河) 何レノ所ニ發シ何レノ方向ニ流レテ終

- 人口十萬
- ✱ 人口三十萬
- ✱ 人口五十萬
- 人口七十萬
- 人口九十萬
- ✱ 人口二十萬
- ✱ 人口四十萬
- ✱ 人口六十萬
- 人口八十萬

第四種ノ記號

第四種ノ記號ハ其中央ニ圓點アリ環線アリ之ニ加フルニ線數ヲ以テレ每百萬ノ人口ヲ示ス則チ次ニ掲ルモノ、如シ

- 人口百萬
- ✱ 人口二百萬

- ✱ 人口三百萬
 - ✱ 人口四百萬
- 山ノ高ヲ示ス記號ノ解

山脈

山脈及小山脈ハ猶都府ニ於ルガ如ク其記號ヲ四種ニ分チ第一種ハ並行曲線ヲ以テレ第二種ハ抱合曲線ヲ以テレ第三種ハ波線ヲ以テレ第四種ハ折線ヲ以テ之ヲ示ス則チ次ニ記スルカ如シ

第一種即小山脈
但高ニ千尺以下ノ者

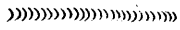
第二種高ニ千尺ヨリ八千尺即半
里ヨリ一里半ノ間
ナルモノ

第三種高ニ千尺ヨリ一萬六千尺即
一里半ヨリ三里ノ間
ナルモノ

第四種高ニ一萬六千尺以上即三
里以上ノモノ

峯

高一里以下ノ峯ハ右方ノ曲線數ヲ以テ一里四分一ノ高ヲ示シ一里以上ノモノハ右方ノ線數ヲ以テ每一里ヲ示シ尚又其下ノ横線ヲ以テ半里ノ示ス



〇	高一里ノ四分一	△	高二里
○	同一里ノ四分二	△	同二里半
◐	同一里ノ四分三	△	同三里
△	同一里	△	同三里半
△	同一里半	△	同四里
		△	同四里半
		△	同五里

亞細亞

基罫ヲ畫ク法

第一 畫カント欲スル圖ノ南北ノ長二分ノ一

ヨリハ稍長キ以呂ノ直線ヲ畫キト之ヲ首線均ク
三部ニ分チ其上ノ一部ヲ更ニ二部ニ平分スヘ
レ

第二 長以呂線ノ全長ト其六分一ナル呂波ノ
水平線ヲ畫キテ之ヲ二部ニ分チ以及波ノ兩點
ヲ連續ス次ニ以波線ヲ三部ニ平分シテ其中央
ノ部ヲ更ニ二部ニ平分シ又其上ノ部ヲ均ク三
分ニ分ツベレ

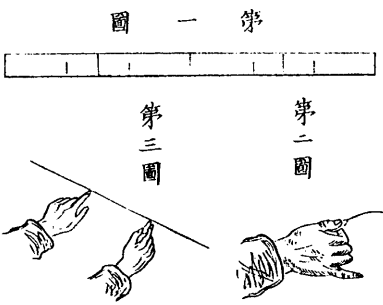
第三 斯クテ以及波ノ兩點ヲ中心トシテ首線
ノ全長ト其三分ノ二ノ長ナル半徑ヲ有テル二

個ノ弧線ヲ相交スルヤウニ畫キ交叉セル點
ヲ仁トス而ノ以仁及仁波ノ諸點ヲ連結スヘシ
第四 以仁線ヲ均レク三部ニ分チ其中央ノ部
ヲ更ニ二部ニ平分シ又仁波線ヲ均レク八部ニ
分ツヘシ

第五 十點ヨリ九點ヘ一線ヲ畫キ七點ヨリ三
點ヘ又一線ヲ畫キ之ヲ各二部ニ平分シ又六點
ヨリ四點ヘ一線ヲ畫キ三部ニ平分スヘシ

第六 次ニ以ヨリ三七ノ線ノ中央迄一線ヲ畫
キテ二分レ廿三點ヨリ五點ノ方ヘ一線ヲ引キ

テ「三」「七」ノ線ニ觸ル、ニ至ラシムヘシ○斯クノ
 如ク基罫ヲ精細ニ畫クハ「仁」及「仁」波兩線ハ
 其長サ皆均シク以「呂」線ハ直垂ナルヲ見ルベシ



第一圖ハ塗板上ニ圖ヲ畫クハ
 生徒ノ便利ニ供フル界木ヲ
 示ス但レ此界木ハ長サ二十
 寸ニシテ之ヲ二分一三分一
 四分一及六分一ニ分ツベシ
 ○又石盤及紙上ニ圖ヲ畫ク
 片用フルモ此界木ト同
 一ニシテ唯其長サ六寸ノ差
 異アルノミ
 第二圖ハ象限ヲ畫クニ便利ナ
 ル法ヲ示ス
 第三圖ハ一條ノ線ヲ三分スル
 ニ便利ナル法ヲ示ス

備考 基罫ヲ製作シ及諸線ヲ區分センニ初
 ハ第一圖ニ示セル如キ界木ヲ生徒等ニ用ヒ
 レメンヲ要ス是レ精密ニ基罫ヲ製作シ且諸
 線ノ區分ヲナサシメンカ爲ナリ然レハ生徒
 等ノ漸ク之ニ練熟セシハ界木ヲ用ヒレメ
 ス唯眼ヲ界木トナシテ之ヲ畫カシムベシ
 象限ヲ畫カンニハ拇指ト食指トノ間ニ要筆
 ノ一片ヲ插シ第二圖ニ示セル如ク季指ノ先
 ヲ中心トナシテ弧線ヲ畫クヘシ而シテ此中
 心ノ方ヘ垂線ト地平線トヲ畫クハ一個ノ

象限ヲ畫クヘキナリ又象限ヲ製スルニ手ヲ用ヒスレテ堊筆ノ一片ヲ短キ糸ノ一端ニ附ケクルモノヲ用フルモアリ尚又一葉ノ紙ヲ四半圓形ニ切りテ其上ニ四分一及六分一ノ區分ノ標點ヲ識シタルモノヲ生徒ニ用ヒンメテ象限ヲ製スルモアリ

一線ヲ均レク三部ニ區分センニハ片手ハ指ヲ用ヒ他ノ手ニハ堊筆ヲモチテ第三圖ニ示セル如ク此指ト堊筆トヲ三部ノ平分ナルカ如ク線上ニ着クベシ

一線ヲ四部或ハ六部ニ區分センニハ先其線ヲ均レク二部ニ分ケ次ニ此二部ヲ共ニ均レク二部或ハ三部ニ分ツヘシ

基線ノ各種ノ線ハ文字ノ次序ニ從カビ之ヲ畫キ區分ノ標點モ亦數目ノ次序ニ從カフテ之ヲ記スヘキナリ

紙及石盤上ニ基畫ヲ畫カンニハ其線ヲ薄ク畫キ又塗板ニハ石盤筆ヲ以テ之ヲ畫クヘシ而シテ塗板上ニハ必界木、三角規、量針、及抹布ノ諸品ヲ各一個ツ、備フヘキナリ

位置 亞細亞ハ赤道ノ北ニアル大陸東部ノ大洲ナリ三面ハ海ニ濱シ西ハ烏拉爾山 烏拉爾河 裏海 高加索山及黑海ヲ以テ歐羅巴ニ接シ蘇士ノ地峽ヲ以テ亞弗利加ニ連ル

長 北ハ勃斯波路斯海峽ヨリ南羅馬尼岬ニ至リ此大洲ノ長サ無慮五千三百里トス

符合點 東岬ハ東ノ角點ヲ以テ定ルヲ得ヘク

羅馬尼岬ハ波ノ角點哥摩令岬ハ廿三點吧泊漫 德峽ハ三點而ノ勃斯波路斯海峽ハ以ノ角點ヲ以テ都テ其位置ヲ定ムルヲ得ベシ

槩形 亞細亞ハ東西最廣ク其形稍方ニシテ地角ノ東方ニ突出スルモノ三、南方ニ二、西方ニ一アリ故ニ太平洋 印度洋ニ面スル海岸線ハ甚彎環シ北氷洋ノ海岸ハ大略易直ナリ

圖ヲ描ク法 太平洋海岸 東岬ヨリ始メテ仁波線ノ十六點ニ於キテ堪察加半島頭ノ西濱ヲ畫ク半島ノ長ハ略仁ヨリ十六點ニ至ル距離ニ同シ○柯哥斯科海ハ十六點ト十四點トノ間ニアツテ線内ニ灣入ス而メ撒該連島ノ北首ハ十四點ニ近シ線内ニテ同點ニ近ク黑龍江又混同

ノ口ヲ畫クヘシ撒該連島ト大陸ノ間ニ^捷韃靼峽^{タル}
 ヲ畫ク朝鮮半島ハ十八點ト十三點トノ間ニ於
 テ東南ニ斗出シ半島ノ長ハ此線一部ノ半ナリ
 ○北直隸灣ハ仁波線ノ中央ニアリ此灣ノ上下
 ニ岸勢ニノ曲線ヲナシテ同線ノ外ニ突出ス但
 其形其大各相似タリ上ヲ滿州ノ東部トナシ下
 ヲ支那本部東南ノ地トス^{チイナ}黃河口ハ十三十九兩
 點ノ中央ヨリ稍上ニアリ其右ニ近ク揚子江口
 ヲ畫クベシ○海南島ハ十五點ニ當リ^{ハナ}凍涼灣ノ
 口ニアリ又^{カホ}凍涼塞岬ハ十七點ニ近ク線内ニ^選

羅灣アリ今若以波線ト平行ニ並ヘテ東埔塞岬
 ヨリ一線ヲ畫クキハ暹羅灣及孟加拉灣ノ東北
 海岸ノ位置ト其方向トヲ定ムルヲ得ベシ但此
 假線上ニテ東埔塞岬ヨリ仁波線二部ノ距離ノ
 處正ニ^{カハ}加爾各答府ナリ
 備考 假ニ十一點ヨリ十三點ヘ一線ヲ引キ
 均シク七部ニ分テ下ヨリ數ツヘ第二區分點
 ヲ中心トシ仁波線ノ一部半アル長ノ半徑ヲ
 有テ爾弧線ヲ其線外ニ施シ均シク八部ニ分
 ツヘシ○撒該連島ノ東岸ナルパチーンズ岬

ノ頸ハ北緯五度 弧線ノ第一區分點ニ觸レ北海
 道ノ北隅宗谷右側ノ岸ハ第二區分點ニ觸レ
 膽振ノ江巴岬ハ正ニ此部ノ線上ニ當レリ陸
 奥ノ西北部ノ邊ハ第三區分點ニ接近シ石
 見ノ西岸ハ第五區分點ニ觸レ九州ノ北西岸
 ハ第五第六間ノ線ニ從カヒ平戸ハ其中央ニ
 當レリ○又波仁線一部ノ長ナル半徑ノ弧線
 フ十四點ヲ心トシ線外ニ引クハ千島ノ位
 置并ニ堪察加半島ノ東岸ヲ定ムルヲ得ベシ
 印度洋海岸 波ノ角點ニ羅馬尼岬ヲ畫キ岬ノ

南ニ接近シテ新嘉坡島アリ六點四點ノ線ニ追
 從シテ印度ノ東岸ヲ畫キ其廿三點ハ哥摩冷岬
 ナリ此點ノ右側ニ錫蘭島アリ岬ヨリ北上スル
 線ヲ追フテ前印度ノ岸ヲ畫キ比耳西亞灣ノ首
 ハ廿四點ノ稍右ノ下ニアリテ灣ハ此線ノ兩側
 ニ亘レリ幼發拉的河モ亦大抵此線ヲ追フテ畫
 クヲ得ベシ
 亞刺比亞ハ三點ヨリ七點ニ畫ケル線ノ中央ヨ
 リ左ニテ其南岸ハ此線ニ觸ル、廿一點ニイソ
 レット岬アリ二點ニ巴泊漫德峽アリ其中間ニ

ハルタツク岬アリ「一」點ト「三」點トノ間ノ左ニ蘇士ノ地峽アリ紅海ノ東岸ハ首線ニ沿フテ其地形ヲ畫キ得ヘシ○以ノ角點ニ波斯波路斯ノ海峽アリ黑海ハ東方ニ延長シテ「八」點ノ區分點ノ線ニ及ヒ又西北シテ亞凍海口ノ東角ニ至ル北海岸ノ圖ハ大略易直ナルカ故ニ別ニ之ヲ講説スルヲ須ヒス唯「十一」「十二」兩點ノ間ニ塞威岬又北東ノ氷海ニ突出スルノミ○烏拉爾山ノ南岬トモ部ハ「十」點ヨリ「九」點ヘ引ケル線ヲ右ニ離間スル「此線一部ノ四分一ニ殆ク烏拉爾河ハ「廿」點ノ

少シ上ニ於テ此線ヲ横過シ南ノ方裏海ニ入ル○裏海ハ同線ノ兩側ニ互リ「廿」點ノ少シ左下ヨリ以波線ノ近クニ延長ス而シテ高加索山ハ黑海ノ北岸ヨリ裡海ニ延長ス但此山脉ヲ畫ケハ是ニ於テ亞細亞ノ外邊圖ハ完成セリ○精密ニ意ヲ用ヒテ摸範ノ圖ヲ習練スルキハ容易ニ外部ノ形狀并ニ内部ノ位置ヲモ學フヲ得且記臆中ヨリレテ之ヲ畫クヲ得ヘキナリ

備考 今假リニ「九」點ヨリ「十四」點ニ向ケテ一線ヲ引キ之ヲ六分スルキハ貝加羅湖ハ右ヨ

リ第二區分點ニ於テ線ヲ横過シバル爾カ須湖ハ第四區分點ノ直下ニ當リア湖ハ第五區分點ノ直上ニアリ

描圖演習ノ法方

描圖ノ演習ヲ行フニ或ハ問ヲ設ケス唯圖ヲ講說セシムル者アリ又次ニ掲ル如キ問答ノ法ヲ設ケテ之ヲ行ハシムルモアリ

亞細亞 基罈ヲ製作シ終リタルキ各生徒皆圖ヲ畫ク用意ヲナスヘシ但初ノ程ハ地圖ヲ手ニシテ畫キ後ニハ全ク記臆上ヨリシテ畫クヲ得

ヘキナリ○教師ノ令スル毎ニ衆生徒皆同時ニ敏ニノ且正シク其令ヲ行フヘシ但シ教師ノ令スル結尾ノ辭ヲ聞キ直ニ之ヲ行フモノトス○生徒何レモ皆己カ畫カント欲スル圖ノ基罈ヲ塗板上ニ備フルト定ムヘシ

外邊圖

(教師) 亞細亞ノ東北角ハ何ト云フ地ナルヤ

(生徒) 東岬

(教師) 東岬ハ何ノ處ニアルヤ之ヲ指點スヘシ

(生徒) 此時之ヲ指點ス又羅馬尼岬ハ

(生徒) 東岬ノ何ノ方ニアルヤ
南西

(教師) 羅馬尼岬ハ何ノ處ニアルヤ之ヲ指點
スヘシ(生徒之ヲ指點ス)

(教師) 次ニ舉ル如キ東岬ヨリ羅馬尼岬ニ至
ル間ノ地名ヲ打點シテ示スヘシ

第一 堪察加半島(生徒此時筆ヲ以テ
打點シテ之ヲ示ス)

(教師) 東岬ノ東ト南トニ如何ナル峽ト海アルヤ

(生徒) 伯冷峽ト白令海

(教師) 第二 撒該連島(生徒打點シテ示ス)

(教師) 堪察加半島ト撒該連島トノ間ニ如何
ナル海アルヤ

(生徒) 病哥斯科海

(教師) 撒該連島ノ南ヨリ斷續海上ニ連リテ
南西朝鮮半島ノ南ニ接スル島ヲ何ト
云フヤ

(生徒) 日本

(教師) 日本ハ幾島ヲ總稱スルヤ

(生徒) 北海道 中洲 四國 九州 ノ 四島

(教師) 日本 ノ 西ニ 對セル 大陸ハ 何ト 名クル

ヤ

(生徒) 滿州

(教師) 日本ト 滿州トノ 間ナル 海ヲ 何ト 名ク

ルヤ

(生徒) 日本海

(教師) 第三 朝鮮半島(生徒打點ス)

(教師) 朝鮮ノ 西方ナル 海ハ 何ト 云フヤ

(生徒) 滄海

(教師) 滄海ノ 西北ニ 如何ナル 灣アルヤ

(生徒) 北直隸灣

(教師) 第四 海南ヲ 打點シテ 示スヘシ(生徒打

點ス)

(教師) 第五 柬埔寨岬ヲ 打點シテ 示スヘシ(全

右)

(教師) 海南 柬埔寨ノ 東方ノ 海ヲ 何ト 云フヤ

(生徒) 支那海

(教師) 柬埔寨岬ノ 内ニ 如何ナル 灣アルヤ

(生徒) 暹羅灣

(教師)

東岬ヨリ堪察加半島ノ海岸線ヲ畫ク
 ヘシ(生徒之ヲ畫ク)○荷哥斯科海ヲ畫
 クヘシ(同上)○荷哥斯科海ヨリ朝鮮半
 島ノ海岸線(同上)○撒該連島ヨリ日本
 ヲ畫クヘシ(同上)○朝鮮ヨリ海南島ニ
 至ル海岸線及其島(同上)○東京灣ヨリ
 東埔塞岬ニ至ル海岸線(同上)暹羅灣ヲ
 畫クヘシ(同上)

此時教師ハ生徒ノ製作シタル圖ヲ一覽シ謬誤
 アレハ之ヲ示シ且正スヘシ

此如クシテ亞細亞外邊ノ圖ヲ完了セシムヘシ
 但又次ニ掲クル地名ヲ圖ノ區分點トシテ之ニ
 打點セシムルヲ要ス其地名ハ勒那河口、比灣
 烏拉爾山ノ中央裏海ノ南北兩端、勃斯波路斯峽
 蘇士ノ地峽、巴泊曼德峽、イソレット岬、コツチ灣
 哥摩冷岬、打拉斯府、各爾各答府是ナリ
 山

(教師)

喜馬拉山ハ何レノ處ニ起リ何レノ地
 ニ延長スルヤ

(生徒)

印度ノ北西境ヨリ起リ山勢弓形ヲナ

（教師）
シテ東南ニ延長シ此國ノ東疆ニ至ル
此山ノ高ハ幾許ナルヤ

（生徒）
世界ノ最高山ニシテ其高凡ソ一萬六
千尺以上三里ニ及ヘリ但東西ノ兩端
ニ於テハ稍之ヨリ低シトス中央至峻
ノ峯ハ或ハ五里半ニ及フヘシ

（教師）
喜馬拉ノ山勢ヲ適宜ニ畫クヘシ（生徒
之ヲ畫ク）

（教師）
喜馬拉山ノ北方ニ重リ峙ツ三個ノ山
脈ヲ問フ

（生徒）
崑崙山天山及阿爾泰山

（教師）
崑崙天山ハ何ヨリ起ルヤ

（生徒）
葱嶺

（教師）
崑崙山ノ東端ハ何ト名クルヤ

（生徒）
支那ノ北嶺

（教師）
崑崙山及北嶺ヲ畫クヘシ（生徒之ヲ畫

ク）○天山（同上）○阿爾泰山（同上）

（教師）
裏海ト黑海トノ間ニ横亘スル山ハ何
ト云フヤ

（生徒）
高加索山

(教師) 此山ノ高幾許ヲ

(生徒) 凡ソ八千尺ヨリ一萬六千尺ニ至ル中

間ノ西ニ聳ユル高峯ノ如キハ三里半

ニモ及フヘシ

(教師) 此山脈ヲ畫クヘシ(生徒之ヲ畫ク)

此時教師ハ山ノ圖ヲ閱シ誤アレハ之ヲ正スヘシ

湖

(教師) 亞細亞洲中著大ナル湖ヲ舉クヘシ

(生徒) 貝加羅湖バルカス湖鹹湖裏海ナリ

(教師) 湖水ノ出路ハ如何

(生徒) 貝加羅湖ハ其西方ナルコソゴル湖ノ

水ヲ受ケアンガラ河ニ注瀉シ日ニ塞

河ニ合レテ北流シ北海ニ入ル他ノ三

湖ハ皆一二河流ノ此中ニ注流スルノ

ミ出路ナシ

(教師) 貝加羅湖ノ位置ヲ示スヘシ(生徒打點

レテ之ヲ示ス)○巴爾噶什湖同上○鹹

湖同上○裏海同上

(教師) 就中淡水湖ハ何レナルヤ

北極海
大
海

(生徒) 貝加羅湖巴爾噶什湖

(教師) 貝加羅湖ヲ畫クヘシ(生徒之ヲ畫ク)○

巴爾噶什湖(同上)○鹹湖(同上)○裏海(同

上)

此ノ如クシテ湖ノ圖ヲ畫クヘシ

河

(教師) 病比河ノ形勢ヲ説クヘシ

(生徒) 病比河ハ其源ヲ阿爾泰山ノ西部ナル

北斜面ヨリ發シテ初ハ迂餘北方ニ流

レ中半ニ至リ西北ニ轉シイルチス河

ト合シテ彎曲北ニ流レ病比灣ニ入ル

(教師) 此河ヲ畫クヘシ(生徒之ヲ畫ク)○日尼

塞河ヲ前ト同法ニテ説キ且之ヲ畫ク

ヘシ(生徒之ヲ説キ且之ヲ畫ク)○勒那

河(同上)○黒龍江(同上)

(教師) 支那ノ二大河ハ何ナルヤ

(生徒) 黄河及揚子江

其形勢ヲ説キ且之ヲ畫クヘシ(生徒之

ヲ説キ且之ヲ畫ク)○瀾滄江(同上)○怒

江(同上)

地理圖法

二十三

大
海

(教師)

恒河印度河ヲ説キ且畫クヘシ(同上)

(教師)

比耳西亞灣ニ流注スルニ河ハ何ト云
フヤ

(生徒)

勿發拉的河及底格里河

(教師)

之ヲ畫クヘシ(生徒之ヲ畫ク)

此ノ如クシテ河ヲ畫キ終レハ教師之ヲ檢査ス
ヘシ

邦國都府

(教師)

餘カ呼フ順序ニ從テ次ノ邦域ヲ説キ
且都府ヲ記シ併セテ下ニ舉ル如キ記

(教師)

西比利亞

號ヲ以テ各都府ノ人口ヲモ示スヘシ

(生徒)

西比利亞ハ亞細亞北部ノ總稱ニノ北

ハ氷海ニ瀕シ西ハ烏拉爾山烏拉爾河

ヲ隔テ魯西亞本部ニ連リ南ハ裏海ヨ

リ達爾給斯丹蒙古ニ界シ東南ハ日本

海西岸ヨリ滿州ノ海岸ニ沿シ東ハ撒

該連島堪察加半島ヲ包テ東岬ニ至

リ盡ク魯西亞ノ屬地ナリ土地多クハ

廣漠ナル原野ニノ舉クヘキ著大ノ府

ノ間ヲ更ニ四部ニ均分スヘシ
 第二 首線ノ「以」ヨリ右ニ首線ノ二部ヨリ稍長
 キ線ヲ正角ニ引キ三部ニ分チ「十一」ヨリ又右ニ
 一線ヲ正角ニ引キ前ノ線端ト會セレノ其尖ヲ
 「保」トシ「保」ヨリ「十」點ヲ貫キテ左ニ出ル凡ソ首線
 一部ノ長ナルスレ此端ニ邊ヲ記シ「保」ト點トノ
 間ヲ三部ニ分チ「以」ト「十」點ノ間ヲ四部ニ爲スヘ
 シ○次ニ首線一部ノ二分一ナル長ノ線ヲ「十三」
 點ヨリ右ニ正角ニ引キ「止」點トシ「十」「十三」ト連
 シ又首線ノ「知」ヨリ「以」仁線ニ平行セル一線ヲ引

キ「仁」呂線外ニ出レメ「利」ヲ記レ七部ニ分ツベシ
 第三 首線ノ一部ニ其四分一ヲ加ヘタル長ノ
 線ヲ「四」點ヨリ左ニ直角ニ引キ「奴」ヲ記シ均シク
 兩分シ其左ヲ更ニ三分シ「呂」點ト連テ之ヲ三
 分スヘシ又「奴」ヨリ一線ヲ引キ「一」點ヲ貫キテ「廿」
 點ノ上ニ至ラシメ之ヲ七部ニ分ツヘシ又「一」點
 ヨリ一線ヲ引キテ「仁」呂線ノ中央ニ達シ「留」ヲ記
 シ之ヲ三部ニ分チ「留」ヨリ「四」ハ一線ヲ引キ三部
 ニ分チ「廿九」「三十」點間ノ中央ヨリ「奴」「呂」ノ上ノ區
 分點ニ一線ヲ引「甲」「乙」ヲ記シ六部ニ分ツヘシ

概勢

日本帝國ハ太平洋ノ北西隅ニ蟠峙セル四大島
 及許多ノ小島ノ總稱ニシテ其地勢東北クワレル千島ノ諸
 守島ヨリ直ニ南西琉球島ニ走リ其形狀遊龍ノ
 波上ニ宛轉タルカ如ク東西相距ル殆ト二千二
 百里餘然レ凡境域接邇シテ氣脈ノ貫通スルハ
 四大島ヲ以テ最モ緊要トス故ニ此圖ハ北見ノ
 納登狹牛ニ起リ大隅ノ佐多岬ニ至ル其長英法
 千百六十里トス基野ノ首線ニ由テ大約其長ヲ
 度ルベキナリ

符合點

基野ノ北角ナル以點ヲ以テ納登狹牛ノ位置ヲ
 定メヘク南角ノ呂點ハ佐多岬ナリ東南ナル仁
 點ヲ大吠崎トシ東角ノ保點ヲ以テ花咲ヲ定メ
 止點ハ龜崎ニシテ留點ハ汐ノ崎ナリ西角ノ奴
 點ハ平戸ノ位置ヲ示ス

描圖法

第一 北海道ノ東北及南海岸 北見ノ北角ナ
 ル納登狹牛岬ヨリ始メ以保ノ線ニ出入シテ其
 海岸ヲ畫キ第二區分點ノ左ニ野登呂岬ヲ畫キ

同點ノ稍右ヨリ線外ニ突出スル者此一部ノ長ニ殆ク知床岬ヲ畫キ野付岬ハ線外ニ近ク根室ノ灣ハ線内ニアリ保點ニ於テ花咲ヲ畫クベシ此點ヨリ東北ニ斗出スルハ納沙布ノ崎ナリ保邊線ノ右ノ區分點内ニ彎入レテ釧路十勝ノ海岸ヲ畫キ左ノ區分點ノ稍右ニ於テ線外ニ斗出スル襟裳崎ヲ畫キ同點ト十點トノ間ニ膽振渡島ノ灣入セル海岸ヲ畫クヘシ十一十二兩點ノ中央ノ稍南ニ江巴崎及室蘭ノ小灣ヲ畫キ十點ノ北ニ渡島ノ惠山崎ヲ畫クヘシ此地ヨリ左ニ近

ク箱館アリ

西海岸「以」在線ヲ追フテ札幌ニ至ル迄ノ海岸ヲハ線内ニ畫ク但十一點ノ上ヨリ斜ニ線外ニ出テ石狩河口ハ十一點ニ近ク其下ニアリ積丹岬ハ知ト十八點ノ中央ニ畫クヘシ歌桑灣ハ正ニ十八點ニ觸ル、後志ノ西南岸ハ同點ヨリ線外ニ突出レ福山ハ十九點ニ接ノ其右ニ畫ク同點ノ直下ニ白神ノ岬ヲ畫キ此岬ト惠山崎ノ中間ニ箱館灣ヲ畫クヘシ是ニ於テ北海道ノ外邊圖ハ完了セリ

第二 中洲東岸及南海岸 以仁線ノ十點ノ左
 = 近ク保邊線ノ上ニ於テ陸奥ノ大間岬ヲ畫キ
 同點ノ右旁ヲ稍下リ止線外ニ斗出シタル泥矢
 崎ヲ畫キ岸勢線ノ内外ヲ追從シテ止點ニ至リ
 陸中ノ龜崎ヲ畫キ止ト十三點ノ中央ヨリ稍南
 ノ線外ニ斗出シテ陸前ノ黒崎ヲ畫キ此線内ハ
 松島ノ灣ナリ灣ノ北岸ニ北上川口ヲ畫キ阿武
 隈河口ハ十三點ノ直上ニアリ線外ニ磐城ノ東
 岸ヲ畫キ常陸ノ岸ハ線内ニ灣入ス仁點ノ上ニ
 利根ノ河口ヲ畫キ之ニ接シテ下總ノ犬吠崎ヲ

畫クヘレ○總房ノ海岸ハ仁呂線第一部ノ半ヨ
 リ稍右ニ於テ線ヲ横過レテ外ニ出ルモノ首線
 一部ノ四分一ナルヘシ知利線仁呂線トノ交叉
 ト廿二點トノ中央ヨリ稍南ニ東京ヲ畫クヘシ
 隅田利根ノ河口ハ京ノ東ニアリ東京灣ノ南東
 岸ハ仁呂線ニ從ヒ安房ノ洲崎ハ知利線ニ觸レ
 テ畫クヘシ相模ノ三崎ハ仁呂ノ十五點ノ外ニ
 畫キ遠江ノ御前岬ハ十四點ニ當テ線外ニ畫ク
 ヘシ伊豆半島ハ此兩點ノ中央ニ於テ線外ニ突
 出ス相模灣ハ半島ノ右ニ駿河灣ハ左ニ於テ各

線内ニ畫ク駿河ノ灣首ハ線ヨリ北ニ入ル者殆
 ト此線半部ノ長ニテ灣首ノ左ニ富士川口ヲ畫
 クヘシ十四點ヨリ留ニ至リ遠三勢紀ノ海岸線
 内ニ灣入スルモノ此線半部ノ長ニ至ル濱名湖
 口ハ十四十六兩點ノ中央ヨリ少シ右邊ニテ線
 内ニ畫キ志摩ノ大王崎ハ十六點ノ内ニ畫キ其
 左岸ノ灣環ハ同點ト留點トノ半ヨリ稍左ニテ
 線ヲ横過シテ出テ紀ノ岬ハ留ノ右側ニ於
 テ線外ニ突出シ畫クヘシ

(備考) 假ニ「二」ノ中點ヨリ「仁」留ノ中央ニ一

線ヲ設ケ均ク四分スレハ伊勢海ノ首ハ第二
 部ノ中央ト第一區分點ノ半ニノ線上ニ觸ル
 ル海首ノ左ニ木曾川口ヲ畫クヘシ伊勢海ノ
 右ニアル小灣ノ首ハ正ニ同區分點ニ當レリ
 又琵琶湖心ハ此線上ニ當リテ其西岸ハ第二
 區分點ニ觸ル、若狹丹後ノ北岸ハ第三區分
 點ノ右ニ出入シ經岬ハ同點ノ北ニアリ而シテ
 隱岐島ノ北東岸ハ此線上ニテ首線ヨリ左ヘ
 其一部ノ四分一ヨリ稍遠ク離レテアリ
 内海岸 紀ノ西南岸ハ汐岬ヨリ留「二」ノ線ヲ追

フテ線外ニ凹凸シ日ノ岬ハ廿九點ノ下ニテ線外ニ畫ク而ノ浪華海ノ口ハ同點ノ右ニシテ稍上ニ畫キ淡路島ノ南岸ハ此點ノ稍上ニテ線ヲ横過ス其西岸ナル湊ハ此線ニ觸レテ畫クヘシ
 三十點ニ備前ノ東南部福浦ヲ畫キ少シク彎曲シテ東シスレハ播摩ノ海岸ニ淡路ノ北角ト一帶水ヲ隔テ峽ヲナシ浪華海ニ連ル次ノ備考ヲ參看ス
 ハ三點ノ少シク上ニ安藝ノ南隅ヲ畫キ其左ノ灣内ニ嚴島アリ廣島ヲ灣ノ北首ニ畫クヘシ假リニ三ト廿七點ニ一線ヲ引ケハ防長南岸ノ位

置ヲ定ルヲ得ヘシ上關ハ三點ヲ離レテ西ニ畫キ赤馬關ハ廿八點ヲ左ヘ少シ離レテ線上ニ畫クヘシ

(備考) 假リニ八點ヨリ廿九點ニ一線ヲ引キ均シク三分ニ分チ下ノ一部ヲ更ニ三分スレハ浪華海ノ首ハ右ノ區分點ニ觸レ左ノ區分點ハ海心ニアリ淡路島ノ北首ハ此點ト並ヒテ其左上ニアリ淀川口ハ海ノ首ニ畫キ武庫川口ハ其左ニアリ而ノ越前ノ敦賀灣ハ此線ノ中部ノ中央ニ當リ立石岬ハ線外ニアリ其

ヨリ以北越前賀能ノ海岸線ハ此線ニ從フテ
 畫クヲ得ヘシ○又三十點ヨリ又呂線ノ上部
 ノ中央ヘ一線ヲ引キテ兩分スレハ備前ヨリ
 周防ニ至ル海岸ノ方向ハ右部ノ線ニ從テ定
 ムルヲ得ヘシ上關ハ區分點ヲ離ル、南東少
 許ニアリ

西北海岸 陸奥ノ大間岬ヨリ保邊線ヲ横過シ
 テ入り九艘泊ノ岬ヲ畫ク此内海ヲ青森灣ト稱
 ス田名部ノ灣ハ十點ノ下ニテ以仁線ノ右ニア
 リ此線ヲ横過シテ左ニ夏泊ノ鼻ヲ畫キ龍飛岬

ハ保邊線外ニ出ルヲ少許小泊岬ハ同線ニテ知
 利線ノ右ニ畫クヘシ十九十七兩點ノ中央ヨリ
 廿一點ノ下ニ至ル迄線ヲ出入シテ陸奥羽後ノ
 西岸ヲ畫キ鳥井崎長崎ハ線外ニアリ野代河口
 ハ線内ニ畫ク男鹿岬ヲ十七點ノ下ノ左側ニ畫
 キ八郎潟ハ同點ノ直下ニシテ線上ニ當ル廿一
 點下ヨリ以西能登ノ内灣ニ至ル迄海岸線易直
 ニシテ漸次ニ彎曲スルノミ廿一點ノ下ニ酒田
 河口ヲ畫クヘシ是レ兩羽ノ國界ナリ河口ヨリ
 線ヲ離開シ斜ニ左ヘ下リ廿四點ヨリ右ヘ首線

一部ノ半離レテ赤川口ヲ畫キ其左少許ノ處ニ
 信濃川ノ口ヲ畫クヘシ即チ羽前ヨリ越後ノ海
 岸ナリ此川口ヨリ稍左ニテ線内ニ灣入レ越後
 越中ノ海岸ヲ畫キ廿五點ノ少シ右部ニ對シテ
 彎曲シ線ヲ横過シテ外ニ出テ斜ニ右上シテ能
 登ノ内岸ヲ畫キ八點ニ狼烟崎ヲ畫クヘシ廿四
 點ノ直南ニ關川口ヲ畫ク佐渡島ノ澤岬ハ廿四
 點ノ直北ニシテ同點ヲ距ル首線一部ノ八分ノ
 一トス廿五點ニ能登ノ地頸ヲ畫キ此ヨリ線内
 ニ入りテ越前若丹ノ大灣ヲナセル海岸線ヲ畫

クヘシ前ノ備考ト丹但因伯ノ海岸ヲ線内ニテ
 廿三廿八兩點間ニ畫キ漸次線ニ近ツキ伯耆ノ
 西部ヨリ線外ニ出テ日根野河口ヲ一點ノ左側
 ニ畫キ夜見ノ濱ヲ畫クベシ三穗ノ關ハ留一
 線ノ通ニテ一點ノ上少許ニアリ此ヨリ以而出
 雲ノ半島ヲ畫キ此内ニ中海実道湖ヲ畫クベシ
 石見長門ノ海岸ハ素直ナレハ只線ヲ追フテ外
 ニ畫クヘシ廿八點ノ左側ニ至リ線ヲ横過シテ
 内ニ入り赤馬關ニ接ス

(備考) 一點ヨリ一點ニ中央ニ一線ヲ達スル

片ハ石長ノ海岸ハ大約線上ニ觸ル、唯長門
 西端ノ一部ノミ僅ニ線外ニ斗出ス此線ヲ追
 フテ奴ヨリ西南ニ出ル、首線一部ノ半ニ當
 ル處即チ五島ノ福江島ノ北西隅ナリ

第三 四國九州ノ小基罫 基罫ノ下ノ一部「一」
 留ノ線ヨリ勢テ小基罫ヲ造ルヘシ先「奴」呂間ヲ
 六分ニ均分シ「卅」點ト「卅」點ノ間ヲ二分シ「卅」
 二點ト「四」點ノ間ヲ三分シ而シテ新ニ「甲」ト「卅」
 點ニ線ヲ引キ「ハ」ト「レ」ニ一線ヲ引キ各均レク三
 部ニ分ツヘレ又「奴」ヨリ右へ首線一部ノ四分ノ

三 離レテ一點ヲ記レ此點ヨリ「レ」ニ一線ヲ引キ
 四 部ニ分チ「ホ」ト「乙」呂間ノ中點「チ」ニ一線ヲ引キ
 三 部ニ分チ其一部餘邊「呂」線外ニ引出レ首線ノ
 「四」呂間ヲ三部ニ分ツヘレ
 四 國ノ外形 「甲」ト「卅」點線ノ上ノ區分點ニ近
 キ「岡崎」ノ鼻ヨリ線外ニ突出セル「阿波上佐」ノ東
 海岸ヲ畫クヘシ「鳴門」ハ「岡崎」ノ東ニ畫キ「蒲生田」
 崎ハ此線ヨリ凡ソ其一部ノ半右ニ離レ兩區分
 點ノ中間ニ當リ海ヲ隔テ正ニ「紀ノ日」ノ「岬」ニ對
 ス「土佐」ノ「室戸崎」ハ近ク「卅」點ノ左ニアリテ線

ニ觸ル、足摺ノ岬ハ卅ニ點ノ右側ニ畫ク此兩
 點ヨリ線内ニ灣入スルモノ大略此一區部ノ半
 ナルヘシ之ヲ土佐ノ灣トス灣ノ北首ニ仁淀河
 ノ口ヲ畫キ其口ノ左側ニ小港アリ其外ニ與津
 ノ岬ヲ畫クヘシ吸江ヲ此右方ニ畫ク○岡崎ヨ
 リ斜ニ左ヘ上リテ甲乙線外ニ突出シ讚岐ノ北
 岸ヲ畫カクハ島ハ第一部ノ中央ニ近シ乃生崎
 ハイノ右ニメ少シク線外ニ畫ク箱崎ハイノ左
 ニテ北西ニ斗出ス箱崎ヨリ直ニ線内ニ入り灣
 環線ヲ出入シテロノ右ニ至リ北西ニ突出スル

モノ此線一部ノ半ニノ撻取崎ヲ畫クヘシ撻取
 崎ヨリ首線ニ併行シテ甲乙線内ニ入り此線ト
 平行シツ、首線ヲ横過シテハノ左ニ斗出スル
 モノ大約甲乙線一部ノ三分一ノ處ニ伊豫ノ三
 崎ヲ畫ク又線内ニ入り川ノ口ヨリ南シハルノ
 線ニ出入シテ伊豫ノ西岸ヲ畫クヘシ此地ノ海
 岸形ハ甚ク凹凸キリ由良ノ岬ハ第一第二區分
 點ノ中央ニテ線外ニ斗出シ鼻面崎ハ第二區分
 點ニ觸ル、此ヨリ線内ニ入ルモノ此線一部ノ
 長ニ近ク小灣ヲナシテ南シ留線ニ從テ東足摺

ノ岬ニ接ス
 九州ノ外形「廿七」點ノ左ノ一點ハ馬關海峡ノ
 中央ヲ示ス此點ノ下ニ「テ」線ノ右ニ斗出シ豐
 前ノ田ノ浦及早鞆ノ瀬戸ヲ畫ク瀬戸ヨリ線内
 ニ中津ノ灣ノ内岸ヲ畫キ上ノ區分點ノ下ヨリ
 右ニ突出セル豐後ノ半島ヲ畫キ杵築日出別府
 ノ岸ハ灣形ヲナスニヨリ「甲」「乙」線ヲ過キテ右ニ
 折レ地藏カ岬ヲ畫ク岬端ハ「レ」線ニ至リ海ヲ隔
 テ伊豫ノ三崎ニ對ス其ヨリ線内ニ小灣ヲナレ
 蒲戸崎ハ同線ヲ出ル少許首線「三」「四」ノ中央ニ近

レ此ヨリ首線ニ併ヒ下ル少許右ノ方雀岬ニ至
 ル此岬ハ首線ノ右ニ出テ「レ」線ノ下ノ區分點ノ
 稍下ニ對ス此ヨリ首線ヲ追フテ「四」點ニ至ルノ
 海岸線ヲ畫ク日向界ニ入リテ日知港ヲ同點ニ
 畫キ此ヨリ岸勢易直ニノ漸々首線ヲ右ニ離開
 シ「ツ」ノ下ニ至テ「留」呂線ニ觸レ都井崎ヲ畫キ内
 ニ内ノ浦ヲ畫ク灣ノ左角同線上ニ大隅ノ大崎
 フ畫キ「ツ」ノ少シ下ニ灣首并ニ高隅河口ヲ畫ク
 ヘシ大崎ノ左ニ觀音崎「呂」ニ佐多岬ヲ畫クヘシ
 ○馬關ノ海峡ヨリ左ニ「奴」ノ線ニ從テ肥前筑

前ノ北西岸ヲ畫クヘシ此地形亦灣環甚シク突
 出スルモノ四灣入スルモノ三アリ馬關ノ點ノ
 少シ左ニ山鹿浦ヲ線ニ觸レテ畫キ袖ノ湊ハ甘
 七ト奴點ノ中央ニテ殆ト線ニ觸レカラ泊ハ其
 左ニテ線内ニアリ呼子ノ浦ハ奴ノ右ニテ線ニ
 觸ル、此兩間ノ線内ニ松浦瀉ヲ畫クヘシ奴點
 ハ田平ノ角ナリ其左ニ平戸島ヲ畫ク奴呂線ニ
 從テヘノ上部ヨリ線内ニ入り大村彼村ノ入江
 ヲ畫ク入江ヲ包ミテヘニ半島ノ畫キ半島ノ頸
 ニ狹小ナル港ヲ畫クヘシ港首ノ右ハ長崎ナリ

「ヘ」ノ中央ニテ長崎港ノ左ニ斗出スル野毛崎
 ヲ畫キ又線内ニ入ルモノ殆ト半部ノ長サ其奥
 ニ小灣ヲ畫ク灣ノ東北首ハ島原半島ノ頸ニテ
 其南端ハ殆ト甲乙線ニ近シ前海ノ西岸ヨリ肥
 前筑後ノ内海ヲ畫キ其西岸ハカニ觸レテ畫ク
 「カ」ノ左ノ下ニ諫早ノ小灣ヲ畫キ右上ニ筑後川
 ノ口ヲ畫クヘシ前海ノ東岸ハ筑後肥後ノ海岸
 ナリ迂回シテ奴四線ヲ「カ」ノ間ニテ横過シ折
 レテ甲乙線ヲ過キ左ニ彎シテ岬ヲナス岬前ハ
 三角瀬戸ナリ岬ヨリ「ヨ」ノ左上ニ至リ其ヨリ左

へ易直ニトノ上ニ至リ薩摩ノ隼人ノ瀬戸ヲ畫
 クヘシ瀬戸ノ北岸ハ肥後ノ長島ナリ天草下島
 ハ乙ト間ノ上部ニテ線ヨリ内ニ斜ニ横リ天草
 上島ヲ其右ニ畫キ長島ヲ其下ノ線上ニ畫クヘ
 シトヨリ海岸線ヲ畫キテ線外ニ出テ漸々離開
 レテレ點ニ近ク野間岬ヲ畫キ川内河口ハトチ
 ノ中央ヨリ稍下ノ左ニ畫クヘシ而シテ防津岬
 ヲ畫カキ海門岬ハリ呂ノ中央ノ左ニ畫キ同線
 ヲ横過シテ灣口ニ至リ山川ノ港ヲ畫キ内海ノ
 西岸チリノ中央ニ鹿兒島ヲ畫キ之ニ對シテ櫻

島ヲ畫キ東北シテ海ノ北首ニ新川口ヲ畫キ東
 岸ハ彎曲シテ左シ櫻島ノ東南岸ニ接近シ又南
 シテ首線ニ從ヒ佐多岬ニ接ス九州外邊ノ圖ハ
 此ニ於テ完了セリ

北亞米利加

基罫ヲ畫スル法

第一 一象限ヲ畫キテ之ヲ第一圖ニ示セル如ク均シク四部ニ區分シ次ニ其第一區分點ノ「二」點ト直角ノ「以」點トヲ經テ畫カント欲スル圖ノ大ニ適フヘキ長ナル基罫ノ首線ヲ畫スヘシ

第二 此首線ノ中央ヨリ之ト直角ニ其長ノ二分一ナル「波仁」ノ線ヲ畫キ次ニ「以」ト「仁」ノ點ト及「呂」ト「仁」ノ點トヲ連接スベシ

第三 「波仁」線ヲ「保點」ノ所マテ接キ延シテ「仁」保

線ノ全長ヲ以仁及呂仁線ノ長ト均シクスベシ
 次ニ以ヨリ保及保ヨリ呂ニ線ヲ畫クベシ
 第四 以保線ヲ四部ニ平分シ而シテ其最上ノ
 區分點ノ知ヨリ此線ト直角ニ長保波線ト均シ
 キ知利線ヲ畫キ次ニ以利ノ二點ヲ連接スベシ
 第五 保呂線ヲ均シク二部ニ分ケ而シテ其線
 ノ中央ヨリ之ト直角ニ保波ノ長ノ二分一ナル
 登奴線ヲ畫クベシ
 第六 波仁及波呂ノ二線ヲ各二部ニ平分シ而
 シテ以仁及仁呂線ハ各六部ニ平分スベシ

第七 仁呂線ノ最下ノ區分ヲ更ニ均シク三部
 ニ分チ而シテ十四ノ點ヨリ右方へ一線ヲ畫キ
 テ十五點ニ至ラシメ又十五點ヨリ下方へ一線
 ヲ引キ下シテ十六點ニ至ラシメ次ニ又十六點
 ヲ右方へ他線ヲ畫キテ十七點ニ至ラシム但
 シ此各線ノ長ハ十二點ヨリ呂ニ至ル距離三分
 ノニナルベシ
 斯ノ如クシテ精密ニ基罫ヲ畫クトキ以仁保仁
 及呂仁ノ諸線ハ各其長互ニ相均シク且以保線
 ハ垂直ナルヲ見ルベシ

位置 北亞米利加ハ赤道ノ北ニアリ
 地峽ヲ以テ南亞米利加ニ連レリ
 長 北ハポイントバルローヨリ南ハ瓜地馬拉
 港ニ至ル此大洲ノ最大ノ長四千八百里○此長
 ハ基罪ノ首線ヲ以テ之ヲ示セリ
 符合點 ポイントバルローノ位置ハ基罪ノ北
 ノ角點ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得又查耳岬ハ東ノ
 角點瓜地馬拉ハ南ノ角點三方濟各港ハ西ノ
 角點亞臘斯加ハ北西ノ角點ヲ以テ皆其
 位置ヲ定ムルヲ得ヘシ

概形 北亞米利加ノ概形ハ三稜ニシテ北方ハ
 廣ク南方ハ狹シ又北氷洋及大西洋ノ海岸線ハ
 殆ト正直ニシテ太平洋ノ海岸ハ彎曲ス
 圖ヲ描ク法 北氷洋海岸 ポイントバルロー
 ヨリ始メテ第一區分點ニ對セル所ニ馬更些ノ
 河口ヲ畫シ第二區分點ノ上ニ維多里蘭ヲ畫シ
 第三區分點ト第四區分點トノ間ニ哈得孫灣ノ
 口ヲ畫シオンカバ灣及ヒチドロー岬ハ第五區
 分點ニ近ク之ヲ畫ス又惹迷斯灣ノ西極ハ波仁
 線ノ中央ニ稍近ク爾ルナリ

大西洋海岸 查耳岬ト第一區分點トノ間ナル
 呂^ウノ線上ニ桑勞稜^{サンラウリョウ}灣ヲ畫キ次ニ此線ノ外
 ニテ第一區分點ニ對セル所ニ新蘇格蘭^{シンソコラン}ノ半島
 ヲ畫キ第二區分點ノ北ニ格底岬^{カクテイ}ヲ畫キ第三區
 分點ノ上ニ非耳岬^{ヒイ}ヲ畫クヘレ○佛勒里達半島
 ノ西海岸ハ第四區分點ヲ横過シ墨西哥灣^{メキシコ}ノ口
 ハ第四區分點ト第五區分點トノ間ニアリテ其
 岸ハ呂波線^{ロハ}ヲ其中央ニ近ク横過シ又其西海岸
 ハ保呂^{ホロ}ノ線上ニアリ而シテ加多支岬^{カダシ}ハ第五區
 分點ニ近ク又中部亞米利加^{セントアメリカ}ノ海岸并ニ巴那馬^{パナマ}

ノ地峽ハ十二點ヨリ十七點ニ至ル折線ニ傍ラ
 テ之ヲ追フナリ
 大平洋海岸 ポイント、バルローヨリ始メテ以
 利線^リノ外ニコツビ^{コツビ}、サウンド及ノルトン、サウ
 ンドヲ畫キ次ニブリストル灣^{ブリストル}ヲ此線ノ内ニ畫
 クヘシ○ノルトン、サウンドハ以利線ノ中央ニ
 近シ又亞臘斯加^{アラスカ}ノ南海岸ハ正シク利知線^{リチ}ト其
 方向ヲ同フス其餘ノ西海岸ノ部分ハ基羅ト唯
 僅ニ一二ノ方向ヲ異ニスル所アルノミ○加里
 福尼半島^{カリフォルニア}ハ殆ト叔ノ角點ニ近ク迄延長シ又

加里福尼灣ノ東岸ハ「奴登」ノ線ノ中央ニ近ク横過ス

備考 窩如湖ハ「波」仁線ノ中央ト「波」點トノ中間ニアリ又「伊利湖」ハ「波」仁線ノ中央ト「呂」仁線ノ中央トノ中間ニアリ

設問 基罫ノ製作法ヲ説クヘシ○ポイント、バルローヲ始メトシ北亞米理加沿海ノ隅角港灣ノ位置形勢等ヲ説カシムヘシ○山岳脉系ノ蟠峙起伏スル方向及其高低ヲ説キ并ニ湖河ノ連絡位置ノ有様ヲモ語ラシムヘシ○

北冰洋ニ注入スル河ヲ始メトシ太西洋太平洋ヲ入ル河道及支流ヲ語ラシムヘシ○政事上ノ區分ニ從フテ其邦國ノ境界ヲ説カシメ且都府ノ名稱ヲ呼ビテ之ヲ記シ及其人口ヲモ記サシムベシ

南亞米利加ヲ畫スル法

基罫 第一 畫カント欲スル圖ニ應シテ適宜ノ長ナル以呂ノ垂線ヲ畫キテ均シク之ヲ四部ニ區分スヘシ而シテ其最上ノ區分點ノ「仁」ヨリ右方ヘ長首線ノ二分一ナル水平線ヲ畫キテ之

ヲ三部ニ平分シ次ニ此水平線ヲ其長ノ三分一
 左方ヘ接キ延スヘシ
 第二「波」ヨリ「登」登ヨリ「以」以ヨリ「邊」邊ヨリ「呂」ト
 逐次ニ直線ヲ引キ而シテ「登」以「以」邊及「邊」呂ノ線
 ヲ各々均シク三部ニ分ツベシ
 概形 南亞米利加ハ北ニ廣ク南ニ狭クシテ其
 概形殆ド尖木ニ均シ又其海岸線ハ正直ニシテ
 唯「僅」カニ基羅ノ線ト背馳スル所アルノミ○此
 大洲ノ南ヨリシテ北ニ至ル長四千五百里ナリ
 符合點 「巴拉危那」半島ハ基羅ノ北ノ角點ヲ以

テ定ムルヲ得又「聖」洛基岬ハ東ノ角點必「耳」拉岬
 ハ南ノ角點「巴」喇那岬ハ西ノ角點ヲ以テ各其位
 置ヲ定ムルヲ得ヘシ○又「巴」那馬ノ地峽ハ區分
 點ノ「四」ニ對シ「亞」馬孫ノ河口ハ「六」ニ對シハリヲ
 岬ハ「七」ニ對シ「拉」巴「拉」他ノ河口ハ「八」ニ對ス
 歐羅巴ノ畫方
 基羅 製ラント欲スル圖ノ大ニ適フヘキ長ナ
 ル「以」呂ノ水平線ヲ畫キ次ニ「以」點及「呂」點ヲ中心
 トナシテ長首線ノ四分三ノ半徑線ヲ有スルニ
 個ノ弧線ヲ互ニ「波」點ニ於テ横ニスルヤウニ畫

キ次ニ「以」ト「波」ト及「呂」ト「波」トヲ連結スヘシ○斯
 クテ後「以」呂線ハ均シク八部ニ區分シ「以」波線ハ
 四部ニ平分シ「波」呂線ハ六部ニ平分スヘシ而シ
 テ基罪ニ示セル如ク首線ノ「六」ノ區分點ト「以」ノ
 角點ヨリ長各「以」呂線ノ八分一ナル垂線ヲ畫シ
 次ニ「邊」點ヨリ「登」點ニ線ヲ畫キ此二點ヲ連結シ
 而シテ此線ヲ均シク二分ニ區分シ又右ノ一部
 ヲ更ニ四部ニ均分スベシ○又「十二」點ヨリ長「以」
 呂線ノ二部半ニ均シキ直角線ヲ畫キテ之ヲ均
 シク二部ニ區分シ而シテ「波」保及「仁」呂ヲ連結シ

次ニ又「九」點ヨリ「波」呂線ノ中央ノ方ヘ一線ヲ畫
 キテ之ヲ「波」ノ角點ヨリ畫キタル垂線ニ觸ル、
 ニ至ラシムヘシ

圖 圖ヲ畫カンニハ「那威」ノ海岸ノ「波」點ヨリ始
 メテ順次ニ北方ヨリ東及南ノ境界線ヲ畫キ而
 シテ又「波」點ヨリ始メテ西ノ境界線ヲ畫クベシ
 北海ハ大略「十二」點ヨリ畫ケル直角線内ニアリ
 而シテ其小半島ハ「保」點ニ於テ同線ヲ横過ス其
 他東北ノ海岸ハ總テ此線内ニアリ○「烏」臘「爾」山
 ノ南方ノ部分ハ「仁」呂線ヨリ離開スルコト首線

ノ一區分ノ三分ニ均シク又烏臘爾河ハ此仁
 呂線ヲ横過ス○裏海ハ仁呂線ノ兩側ニアリテ
 且波呂線ヲ十五點ニ於テ横過シ而シテ以呂線
 ノ一區分ノ二分一ヨリ稍遠ク南ニ延長ス
 黑海ハ以呂線ノ六點ヨリ殆ト七點ニ近ク延長
 シ馬馬拉海ハ登ノ角點ニ近ク又希臘半島ハ十
 七點ト十九點トノ間ニアリテ邊登線ノ南ニ延
 長スルコト此線ノ一區分ニ均シ○亞得亞海ノ
 海首ハ以呂線ノ中央ヨリ西へ此線ノ一區分ヲ
 距レタル所ニアリ○伊太利ハ形長脊ニ似テ其

踵ハ十七ニ近ク又其趾ハ十七ト十八トノ間ヲ
 横過シテ邊登線ノ南ニ延長スルコト恰モ希臘
 半島ノ南ニ延長スル距離ノ二分一ニ均シ○熱
 那灣及雷昂灣ハ二ノ分點ノ兩傍ニアリテ互ニ
 相對シ又西班牙ノ海岸ハ四點ノ南ノ一點ヲ以
 テ邊登線ニ近接ス
 那威ノ海岸ハ以波線ニ追從レ而シテ十點ヨリ
 南ニ延長スルコト首線ノ一區分ニ均シ○波
 尼灣波羅的灣北海北海ノ南海岸及侏佛爾ノ海
 峽ハ九點ヨリ知點ニ至ル線ト知點ヨリ波點ニ

至ル線トヲ以テ其位置ヲ定ムルヲ得ヘシ○此
斯加灣ノ頭ハ以呂線ノ「四」ニ近ク又阿尼牙湖ハ
波呂ノ線上ニテ「十三」點ニ近シ

設問 基罫ノ製作方ヲ説クヘシ○裏海ヨリ
始メテ順次ニ歐羅巴大洲ヲ包括セル海洋等
ノ名ヲ語ルベシ○最大ナルモノヲ始メトシ大
小ノ順序ニ從テ政事止ノ區分ノ名ヲ語ルハ
シ○各首府ノ人口ヲ語ルヘシ○最大ナル十
個ノ都府ノ名ヲ語ルヘシ○山脈ヲ解説スヘ
シ○烏臘河ヲ始メトシテ順次ニ裏海、黑海、及地

中海ニ入ル所ノ河ヲ悉皆舉クヘシ○大西洋
及北氷洋ニ入ル所ノ河ヲ説クヘシ

佛蘭西ヲ畫ク法

基罫 適宜ナル長ヲ度リテ以呂ノ水平線ヲ畫
キ之ヲ均シク四部ニ分ツヘシ次ニ此線ヲ二分
スルトコロノ波點ヨリ長首線ノ全長ト其四分
一倍ナル垂線ヲ畫キ而シテ以仁及仁呂ノ諸點
ヲ連結シ且此諸點ヲ連結シタルニ線ヲ各均シ
ク二部ニ分ツヘシ○又保點ヨリ長首線ノ四分
一ニ均シキ保登ノ直角線ヲ引キ而シテ仁登及

登呂ノ諸點ヲ連接シ次ニ又邊ヨリ以呂線ノ二分一ナル邊知ノ直角線ヲ畫キ邊仁線ハ利點ニ於テ均レク之ヲ二分シ邊以モ亦奴點ニ於テ之ヲ二分ス而シテ仁知及知奴ノ諸點ヲ連接シ仁知ヲ二部ニ平分シ登呂ヲ三部ニ平分スヘシ必里尼斯山ノ東邊ハ波ノ南ニテ保登線ノ距離ノ凡々三分ノ二ノ所ニアリ○又塞納河ハ四部ニ區分セル以仁線ノ上ノ部ヲ横過シ羅亞爾河ハ此線ノ中央ヲ横過シ又多爾多尼亞ト伽倫ノ二流合シテ成ル所ノ日倫河ハ下ノ區分點ヲ横過

ス但レ精密ニ此基罫ヲ畫スルトキハ登呂線ハ必ス垂直ナルヲ見ルヘシ

不列顛諸島ノ畫方

適宜ノ長ナル以呂ノ首線ヲ畫キテ其中央ヨリ長以呂ニ均レキ垂線ヲ畫キ而シテ以仁及仁呂ノ諸點ヲ連接シ次ニ以仁及波仁ノ二線ヲ各均レク四部ニ分ケ仁呂線ヲ三部ニ平分ス○又以波ノ間ヲ六部ニ平分シ而シテ保ヨリ長殆ト首線ノ四分一ナル保邊線ヲ畫キ次ニ又長保邊ノ二分一ナル呂登線ヲ畫キ而シテ邊ト登トヲ連

續スベシ

北ノ角點ハ拉斯岬ノ位置ヲ示シ東ノ角點ハ達
 迷斯河口ノ位置ヲ示シ東南ノ角點ハ佗佛爾海
 峽ノ一點ヲ示シ南ノ角點ハランドスインドノ
 位置ヲ示シ西ノ角點ハバルセル、ヘトノ位置ヲ
 示ス

三ノ區分點ニ近ク加爾威灣アリ一點ニ愛倫ノ
 北邊アリ七點ニホルスノ河口灣アリ五點ニ近
 クロックリンヘノ曲江アリ又四點ト六點トノ間
 ニ愛倫海アリ○又拉斯岬ト慕來河口灣トノ間

ニ突出シ慕來河口灣ト泰河口灣トノ間ニ突出
 シ及ヒ加爾威灣ト德内加爾灣トノ間ニ突出ス
 ル地ハ何レモ皆基罫ノ兩側ノ線外ニ離開スル
 コト凡首線ノ八分一ニ均シ

亞弗利加ヲ畫ク法

基罫 第一 第一圖ニ示セル如ク均シク六部
 ニ分テタル象限ニ依リテ今製ラント欲スル圖
 ニ適フヘキ長ノ首線ヲ畫クヘシ
 第二 此首線ヲ波點ニ於テ二部ニ平分シ次ニ
 其上ナル一部ヲ一點ニ於テ均シク二部ニ分ケ

而シテ又其上ナル區分ヲ更ニ「點ニ於テ均シク」
 二部ニ分ツヘシ
 第三、以「及」呂ヲ中心トナシテ二個ノ弧線ヲ「仁」
 點ニ於テ互ニ交叉スルヤウ畫クヘシ但「以」ヨリ
 「仁」ニ至ル距離ト「呂」ヨリ「仁」ニ至ル距離トヲシテ
 各々首線ノ四分三ニ均シカラシムベシ而シテ
 「以」及「呂」ノ線ヲ畫ク○以「保」及「波」保ノ線モ前
 ト同法ヲ以テ之ヲ畫ク但シ此線ハ何レモ「以」波
 線ノ四分三ニ均シカルヘシ
 第四、以「仁」線ヲ均シク二部ニ分ケ而シテ首線

上ノ「以」ヨリ「點」ニ至ル距離ト均シキ「邊」知ノ直
 角線ヲ畫キ次ニ「邊」仁線ヲ均シク二部ニ區分シ
 「以」知及「知」登ノ二線ヲ畫キ而シテ「以」知「呂」波及「波」
 保ノ諸線ヲ各均シク三部ニ分ツヘシ
 概形、亞弗利加ノ概形ハ南北亞米利加ノ如ク
 北ニ廣ク南ニ狹ク其海岸線ハ正直ニシテ南亞
 米利加ニ似タリ又此大洲ハ南亞米利加ノ如ク
 赤道ノ兩傍ニ位ス
 符合點、斯巴的岬ノ位置ハ基單ノ北ノ角點ヲ
 以テ之ヲ定ムルヲ得又蘇士ノ地峽ハ東北ノ角

點加爾達夫岬ハ東方ノ角點亞古列岬ハ南ノ角
點及羅基娑岬ハ西方ノ角點ヲ以テ皆其位置ヲ
定ムルヲ得ヘシ

政事上ノ區分 亞弗利加ノ政事上ノ區分ハ明
白ニ其數ヲ定ムル能ハス但シ其最モ緊要ナル
區分ハ摩洛哥阿爾及突尼斯的波里埃及努皮亞
亞比西尼桑給巴莫三鼻給皮朴哥羅尼幾內亞里
卑利亞塞內岡比蘇哈拉及蘇丹是ナリ
外邊ノ圖 斯巴的岬ヨリ北及東ノ海岸ヲ畫キ
次ニ又此岬ヨリ始テ西ノ海岸ヲ畫クヘシ

斯巴的岬ヨリ崩岬ニ至ル海岸ハ以知線ノ外ニ
突出シ而シテ又以知線ヲ横過シハ點ニ對シテ
西侈羅灣ヲ作ル○紅海ノ西海岸ハ基罫ノ線ヲ
追ヒ登點ニ至リ夫ヨリ線内ニ彎曲ス又此大洲
ノ東海岸ハ始線外ニ彎曲シテ九點ニ達シ次ニ
又線外ニ彎曲シテ亞古列岬ニ達ス而シテ此亞
古列岬ヨリロベース岬ニ至ルマデハ近ク基罫
ノ線ヲ追ヒ又線内ニ彎曲シテ幾內亞灣ヲ作リ
次ニ五點ニ近ク基罫ノ線ヲ横過シ而シテ又線
外ニ彎曲シテ羅基娑岬ニ達ス

15112, 15113 - 6.9

地理描圖法

文書

地理描圖法終